利尻研究 Rishiri Studies (35): 01-03, March 2016

利尻島におけるヨーロッパビンズイとコウライウグイスの観察記録

田牧和広

〒097-0211　北海道利尻郡利尻富士町鬼脇字沼浦

Observation Records of Tree Pipit, *Anthus trivialis*, and Black-naped oriole, *Oriolus chinensis*, from Rishiri Island, Northern Hokkaido

Kazuhiro Tamaki

Numaura, Oniwaki, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0211 Japan

Abstract. A Tree Pipit, *Anthus trivialis*, and a Black-naped Oriole, *Oriolus chinensis*, were observed at Numaura, southern Rishiri Island, northern Hokkaido in 2015. The former is newly recorded from this island.

利尻島の鳥類相は，小杉（2000）によって255種があげられ，その後も様々な報告が追加され（田牧，2001；田牧ほか，2003；大野・小杉，2007；佐藤ほか，2007；黒川・小杉，2010；風間ほか，2013，など），2015年3月までに317種が記録されてきた．筆者は2015年の4月から5月にかけて，同島においてこれまで観察記録がなかったヨーロッパビンズイのほか，二例目の観察と思われるコウライウグイスを確認したので，ここにその詳細を写真とともに報告する．なお，小杉和樹氏（日本野鳥の会道北支部）には同定の確認のほか，様々な情報提供をいただいた．宮本誠一郎氏（レブンクル写真館）および菊池力氏（礼文町）には，礼文島におけるコウライウグイスの記録についてご教示いただいたほか，写真提供をいただいた．さらに，本稿の取りまとめの際，佐藤雅彦氏（利尻町立博物館）に大変お世話になった．これらの方々に心より感謝申し上げる．

01．ヨーロッパビンズイ　*Anthus trivialis*

2015年4月13日，利尻島南東部の利尻富士町沼浦地区の町道横の草地で餌をついばむ、小型鳥類1個体が観察された．10-20mほどの距離をおいて観察，写真撮影を行ったところ，次のような特徴が認められた．色合いや大きさなどはビンズイ *A. hodgsoni* に酷似するが，その特徴である明瞭な汚白色の眉斑，目の後方の白色斑（高野，2007）は確認されなかった（図1-2）．本個体の頭部には細かい黒褐色の縦斑があり，背の黒褐色の軸斑は明瞭，かつ縦斑となっていた．さらに，暗色で細い過眼線があり，淡色の眉斑と耳羽後方の斑は不明瞭であり，身体下面は白味を帯びていたことなど，特徴はヨーロッパビンズイのものと合致し（真木・大西，2000），同種に似るセジロタヒバリ *A. gustavi* は背に白い筋があり（五百沢，2000），マキバタヒバリ *A. pratensis* の後趾は湾曲せず直線的であることから（真木・大西，2000），本個体をヨーロッパビンズイとした．なお，同月17日に沼浦地区より2kmほど西に位置する南浜地区の町道においても，本種と同じ特徴を持った1個体が筆者により観察された．

ヨーロッパビンズイはヨーロッパから中央シベリア高原にかけて繁殖し，冬季にはアフリカ中部やインドに渡り，日本では迷鳥として主に日本海側の島嶼での記録がある（五百沢，2000）．

Figures 1-2. *Anthus trivialis*. Numaura, Rishiri Island. April 13, 2015.

02．コウライウグイス *Oriolus chinensis*

2015 年 5 月 23 日，利尻島南東部の利尻富士町沼浦地区において，「ピイロ，ピィ」とよく澄んだ遠くまで響く声の他，「ギャーオ，ニャー」などという聞き慣れない鳥の声に気づき、鳴き声をたどっていくと沼浦神社の林内で，若葉の茂った木の枝の間を移動する本個体を確認した（図 3）．黄色の体色，黒の過眼線，桃紅色の嘴がよく目立ち，コウライウグイスであることは明らかであった．本個体の体には緑味がないのでオスの個体と考えられた（高野，2007）．

コウライウグイスは，インドから東南アジア・台湾・中国東部・朝鮮半島・ウスリーで繁殖し，中国南部以北で繁殖するものは冬季東南アジアに渡る（五百沢，2000）．日本では数少ない旅鳥として北海道から九州まで記録があり，特に島嶼での春の記録が多いとされる（真木・大西，2000）．北海道からの記録は，1988 年 6 月 10 日の恵庭，1985 年 9 月 8 ～ 20 日の札幌, 1994 年 8 月 1 ～ 2 日の根室，がある（藤巻，2012）．利尻島では，1993 年 5 月 16 日に利尻富士町鴛泊湾内地区の姫沼展望台付近の雑木林でオスと思われる 1 個体が川合広恵氏によって確認されていたが，目視のみの記録であった（小杉私信）．なお，2015 年 5 月 25 日には，菊池力氏により本種 1 個体が礼文島香深字内路において撮影されており（宮本私信，図 4），観察日も近く，利尻島で観察された個体と同一個体の可能性が疑われた．

参考文献

藤巻裕蔵，2012．北海道鳥類目録．改訂 4 版．極東鳥類研究会．美唄．78pp.

五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸，2000．日本の鳥 550．山野の鳥．文一総合出版．東京．

Figures 3-4. *Oriolus chinensis*. 3: Numaura, Rishiri Island. May 23, 2015, 4: Kafuka, Rebun Island. May 25, 2015 (photo by T. Kikuchi).

359pp.
風間健太郎・宮本誠一郎・佐藤雅彦，2013．利尻島におけるチュウヒの観察記録．利尻研究，(32): 51-52.
小杉和樹，2000．利尻島における月別鳥類出現リスト：150-155．寺沢孝毅（編），北海道　島の野鳥．北海道新聞社．札幌.
黒川健一・小杉和樹，2010．利尻島におけるジュウイチ Cuculus fugax の初記録．利尻研究，(29): 57-58.
真木広造・大西敏一，2000．日本の野鳥 590．平凡社．654pp.
大野陽子・小杉和樹，2007．利尻島において観察されたシベリアムクドリ．利尻研究，(26): 29-30.
佐藤里恵・小杉和樹・川崎康弘，2007．利尻島におけるイナバヒタキ *Oenanthe isabellina* の初記録．利尻研究，(26): 51-52.
高野伸二，2007．フィールドガイド日本の野鳥．増補改訂版．日本野鳥の会．374pp.
田牧和広，2001．利尻島における鳥類の新分布の記録．利尻研究，(20): 29-34.
田牧和広・杉村直樹・小杉和樹・佐藤雅彦，2003．利尻島における鳥類の新分布および稀少種の記録 (2)．利尻研究，(22): 23-25.